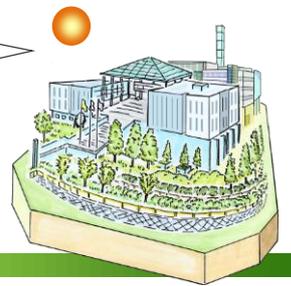


コロナ状況により、教室・行事の変更がある場合
HP にその都度掲載いたします。

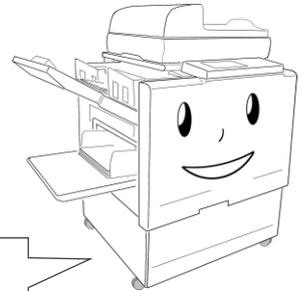


しみんけんきゅうニュース

発行:(公財)千里リサイクルプラザ 市民研究所 〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園4-3
TEL 06-6877-5300 FAX 06-6876-0530 <http://www.senri-recycleplaza.or.jp/>

【目次】

- P2-3 SDGs 啓発 PT 特集
- P4-5 吹田ごみ物語 PT 特集
- P6 さらに 300 号を目指して
- P7 市民研究所通信
- P8 1・2 月行事予定



301 号発行！次は
400 号をめざして
がんばります。



12/3 コロナ赤信号点灯！ 3密回避。加湿。加温。手洗。
飲食時無言、会話時マスク着用。 不要不急移動自粛。



わたしから

SDGs 啓発プログラム作成プロジェクトチーム

市民研究員 三木 八郎・三枝 茂

『楽しく、みんなで作る、

吹田のSDGs！』

9月12日、ご存知の様に『くるくるつながり広場』が開催されました。15名の方が参加され情報交換しました。当プロジェクトの紹介テーマは“SDGsをイメージしてみよう”です。三枝さんからは各種カードゲームの紹介とミニ体験会、小幡所長からは金沢工業大学が開発したカードゲームの紹介と設計・狙いの説明、三木からは学校、企業の取り組み事例の紹介と参加・体験のお勧め、などを行いました。

当日参加できなかった方も、数多くおられると思います。今回、現在討議中の内容を含めてSDGsプロジェクトの概要を紹介させていただきます。

『みんな目指したい、3つのゴール』

SDGsプロジェクトが目指す目標は、“地域の方々に喜ばれる吹田のSDGsの拠点”になれる様に、くるくるプラザの施設と現在の活動の魅力も活かすことを前提に研究を行い、

- ① 近隣の小学生のSDGsの“学び・取り組みの応援”が出来る様になる。
- ② 近隣の方々の暮らしや活動に、SDGsの考えや行動を“取入れたり、楽しんだり”を応援出来る様になる。
- ③ SDGs活動の情報発信・交流拠点になる。の3点です。それをみんなで計画して、実践・達成しようと言う欲張りなプロジェクトです。

さて、最近よく目にする一見難しそうなSDGsですが

『私たち全員が快適に生きるための地球や世界に関することである』

『身近な活動や行動と結びついている』

『子どもから大人まで、男女を問わず誰でも参加・関わっていることである』

などから、一気に活動の輪が広がっていると思います。

こんなSDGsに、『楽しみ・学び・行動する』をスローガンに取組みたいと考えています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



『必要な行動って、何だろう？』

現在、SDGsプロジェクトは出発したばかりで何も決まっていません。「この3つの目標に向かってこれからどの様に行動するのか？」を話し合い、決定し、行動するためにスタートしたばかりです。大まかには、次の様な方向の活動とその準備の意見交換を開始しています。

○「子どもたちのSDGsの学びと実践を応援出来るプログラムづくり&サポートの準備」

子どもたちにSDGsを分かりやすく伝えて、身近な課題への取組みをサポートするため、学習プログラム情報・事例の収集からスタート、その応用・活用方法を考えます。

近隣の学校からは「一緒に研究を」と声を掛けて頂いていて、この機会も活用します。

(将来は「くるくるプラザらしい学習プログラム」づくりまで行ければ最高です。金沢工業大学のカードゲームには独自プログラム作成への連動が意識されている様です。)

○「全員（プロジェクトメンバーに限らず）がSDGsの理解を深めるための計画と行動」

学校や企業の取組み事例やプログラムへの体験・参加は理解を助けてくれます。また例えば、SDGsカードゲームという教材があります。仮の世界を想定、私たちの行動がSDGs 17目標を含め社会に与える影響は？行動相互の関係は？などを体験型のゲームを通じ、自らの行動のあり方に気づいたり発見するプログラムです。勿論、SDGsへの深い理解も促進します。

このような参考プログラムの情報収集・紹介、体験を積極的に行う事も、検討しています。

2月6日（土）に講師を招いてSDGsカードゲームを実際に体験する講座を予定しています。是非ご参加ください。

○「くるくるプラザの方々がSDGsを意識したり、取入れていただくためのサポート活動」

くるくるプラザの各工房や他のプロジェクト活動で、SDGsを意識してもらったり取入れてもらったりするためのサポートも準備したいと考えています。

グループでの話し合いを円滑にして一層成果を高めるための様々な工夫・手法も研究されています(例えば、ワークショップの進め方など)。それらに触れて頂く機会も提供出来ればと考えています。またご意見をお聞きして準備を進めます。

以上、まだまだスタートラインに立ったばかりです。関心のある方のご参加をプロジェクト全員がお待ちしております。『一緒に楽しいSDGs活動づくりをしましょう』

.....

【エピローグ】

『はじめは、“何する？”からでした』

最初は、『楽しい』『何かに貢献する』『多くの方の関心を集める』ことを目標に何か計画、行動したいと（多分）考えていた見知らぬ3人が集まりました。その時は、まだSDGsの名前は挙がっていません。その後くるくるプラザが、“多くの市民の方が活動する地域のエコの拠点”であることや“今までの活動例も参考に” “子供を含め極力多くの方に関わって欲しい”などの意見・考えをベースに話合った結果、“SDGsプロジェクト”が立ち上がりました。“今が旬のテーマ”との魅力もあります。『乞う、ご期待！』です。

SDGsを理解する為のツールとして代表的な活用出来る代表的なカードゲームの特徴

ゲーム名	2030SDGs	SDGs 地方創生	SDGs アウトサイドイン	SDGs カードゲームX (クロス)
人数目安	5人~50人	6人~40人	6人~48人	2~3人の複数のチームで行う
時間	2~3時間 (解説含む)	2~3時間 (解説含む)	3~5時間 (解説含む)	2時間~1日 (解説を含む)
対象	世界	日本国内	企業	現状から新たな切り口を考える
体験後	本質理解	問題理解	企業協業	事業立案
方向性	行動変容	行動変容	新事業拡大	商品開発
ゲーム観	抽象的	具体的	ビジネスモード	問題提起

他にもSDGs ババ抜きゲーム・SDGs ボードゲーム・ゴーゴーゴールズすごろくゲームがあります

吹田ごみ物語編集プロジェクトチーム

『「吹田ごみ物語」編集PT』からの発信
茶園征也

このプロジェクトは、今年度4年目にあたりPT活動の区切りをつけたいと思っていました。今年度内に調査・研究成果をまとめて「吹田ごみ物語編集PT」を終了します。

ただし、来年度から新しい研究テーマの下にPT名も一新して活動します。

各メンバーが4年間の取り組んだテーマを中心に次年度に向けての思いも含め記してもらいます。

生ごみの再生利用 ～今なぜ「生ごみ」か～
三沢輝起

吹田市では今、生ごみは回収していません。これは、家庭の生ごみ処分は分別等が大変、特に保管中にウジ発生がして一層”大変”なので、「利便性を求める消費者の多くが選択したのは、生ごみを従来通り可燃ごみとして出す事だった」からです。

しかし生ごみを有効利用(リサイクル)した場合には、2大メリットが生じるのです。第1に吹田市のリサイクル率は現状の約16%が最大48%へ向上し、第2にメタンガス化により電力等の新バイオエネ

ルギーを創出できるのです。

リサイクル率については生ごみをリサイクルした時、ごみ分別数に比例して諸都市のリサイクル率は30-84%へと向上することが分かりました。

また新バイオエネルギーに関しては、多くの自治体や企業が実用化開発を開始しており、京都市では2019年9月に目標600万kWh/年のメタンガス発酵発電所をスタートさせました。又企業では1,000~2,000万kWh/年目標の発電所も出始めています。一方原料については、自治体では生ごみですが、企業では食品残渣が主流であり、可燃ごみ+生ごみを無分別回収して工場で機械選別する方式も、自治体・企業の双方で開発中です。生ごみは是非リサイクル(有効利用)すべきです。



最後に、自治体が本プロセス事業化を考える場合、以下の問題点の検討は必須と考えられます。

生ごみの分別・回収方法、バイオ原料の確保、ごみ処理施設の設置場所の確保、ごみ処理施設の製造・設置・運営の確定、資金の確保

しかし、いずれも吹田市単独での対応は難しく、国・府県等との広域連携は必須と考えられます。

最近上記問題点に対して、以下のドンピシャの国の対応策が発表されました。

2019年環境省通知(環循適発第0903293号)「持続可能な適正処理の確保に向けたごみ処理の広域化及びごみ処理施設の集約化について」です。

[この主旨]府県が主体となり市町村と密に連携して計画を推進し整備を進める。完成後のごみ処理施設は①地域産業振興のインフラの核とする②災害時の防災拠点として活用する③環境教育・学習の場として提供する、等を図ることです。

“これをNATSの共同事業として活用できない

プラスチック ～「すてるをなくす」

2021年度に向けて ～ 平木徳弘

か?”と考え、吹田市に提案している所です。

「すてるをなくす」というフレーズはメルカリが創業時から使っており知っている方もいらっしゃると思います。吹田市のごみ問題にあてはめた場合、「プラスチック」と「生ごみ」について「すてるをなくす」ことができれば勲章モノだなと思っており、その両方のテーマを我が「吹田ごみ物語PT」で採り上げていることは個人的には密やかなプチ自慢のひとつです。



私事で恐縮ですが、大阪南部で一人暮らしをしている母親が10月初めに入院してしまいました。実家のどこに何があるかわからずに何かと苦労しているのですが、ある時、台所のスミに使い終えたプラスチックのトレーや容器を洗って保管しているのを見つけてしまいました。年をとってもちゃんと分別をしてごみ出ししようとしていることがわかってエライなと感動しましたが、

翻って自分も含め吹田市民はプラスチックごみを燃えるごみとしてひとまとめで出しており、ある意味、怠慢だなあと感じた次第です。

吹田市のように容器包装のプラスチックごみを分別していないのは、大阪の主要22市町村のうち5市町村（吹田、高槻、茨木、箕面、羽曳野）だけです（18年3月現在）。加えて、国の方では容器包装プラスチックだけでなく、製品プラスチックも一体的に自治体が回収することを現在検討しており、この12月にはパプコメが締め切られ、2021年には規制化などが検討される予定です。今のままでも吹田市はすでに周回遅れなのですが、このまま放っておくと2周遅れになるかもしれません。

2021年度は吹田市当局とのコミュニケーションをさらに深めながら、この大きな問題についてどこから誰が何に手を付けていったらいいのか、活動の強力な助っ人を探しながら、市民目線を忘れずに行動していければと思います。このプラスチック問題にご関心のある方は、いつでもお声がけいただければ幸いです。

私が考える市民活動

山下宗一



市民による研究活動

市民への活動に期待が集まり、そのパワーが持続可能な社会作りを担っていくことを考えれば、行政との関係は、市民自らが「是は是、非は非」にして

いく必要があります。要求主導ではなく、「提言」を通じた参加が求められています。ではこの「提言」をしていくためには、どうすればよいでしょうか。問題意識を持った市民の主張が他の市民にも受け入れられ、納得できるものであること。もう一つは、その判断が単なる「地域エゴ」にすぎないとのレッテルを貼られないようにすることです。そのためには、「官僚的」または「専門的」な知＝見解・解釈に対して議論し、発言する力を持たなければなりません。それは、「生活を通じた知識・問題意識」を元にした「市民による研究」を行わなければ獲得できないものであると考えます。

ごみ問題は、国の施策だけでなく、自治体、事業者と市民による一連携・協働を通して、社会的ルールを確立すると共に、生産・販売・流通をも巻き込んでいくことで解決の糸口がつかむことが出来ます。何より、自治の主人公である市民の意

識・行動が鍵となり、その市民には、同じ市民の目線を持つカウンセラー的相談相手が絶対必要です。なぜなら、問題解決等の情報や進路で悩み、苦しむ姿が多く見られるからです。そういった不満や悩みに寄り添っていくのが私達市民研究員だと考えています。さらに、自らのスキルアップを図りつつ、地域や市民団体、学校等が行う環境保全活動や環境学習に対し、課題の解決に向けて適切な助言を行うと共に、地域の環境パートナーシップ形成等、環境保全を牽引していくことが期待

情報のデジタル化、SNSの活用について

黒田 勇

されており、この推進こそが重要です。

「ごみ物語改訂版」の編集会議として開始されたこのPTですが、紆余曲折を経ました。初版から20年を経ての改訂版の編集です。ごみを巡る環境も大きく変化しましたが、何よりもメディア環境が激変し、あらゆる情報の収集から発信までインターネットへの依存が強まりました。その結果、改訂版については、情報をデジタル化してデータを保存、発信し、紙媒体は利用しないことにしました。これは時宜にかなった画期的な決定でした。

まず、普段の編集会議の様子を発信するFacebookの立ち上げを2018年に開始しました。しかし、送り手も受け手もその活用ができなままでした。いよいよ、改訂版の作成に入る2019年秋にブログを立ち上げました。これも初年度は、制度的な調整もできず、十分に活用はできなかったのですが、本年に入り、次第に研究員の報告がアップされ、外部からのアクセスも増加しています。

さらに、2020年夏からは、関西大学の学生たちの参加を得て、より柔軟な情報発信を進めています。彼らのアイデアにより、ブログとFacebook、さらに簡易なHPの作成と、それを有機的につなげていく方向を模索中です。そして何よりも市民研究員自身に、この新しい道具を活用する意欲と能力のさらなる高まりが望まれています。



発表会風景

さらに 300 号を目指して

主担研究員 土屋 正春

新しい1号の始まりに

「しみんけんきゅうニュース」が通算で 300 号を重ね、本号はそれを受け継ぐ新世紀の第 1 号ということになります。

これまでの流れについては 300 号で大垣さんによる丁寧な解説があり、研究所の活動に少しでも触れた方々にはある種の感慨がわいたに違いありません。

私たちの活動はある意味で「新しさ」を常に求めないとならない面と、これまでの「積み重ね」に重い意味を見出さないとないという 2 つの相反するような面があります。大げさな表現を借りれば温故知新というようなことです。300 号までがあつてのこれからだということを忘れる訳にはいかないのです。

ところで実際は

すでにご存じのように持続型社会に向けた生活や生産と消費の社会体制づくりが叫ばれて久しいのですがこれがなかなか難しいのです。

私の住まいから 15 分ほど歩くと金属廃品回収業者の広い作業場があり時々遊びに行くのですが、電子レンジやステレオセットなどでは私の家で使っているものより新しいものが捨てられ回収されて山のように積み重ねられている光景にまず驚かされます。まだ使えるのがたくさんあるよ、とのことで、見るほどに納得がいく言葉です。



これは以前にプラザから見学を訪れた衣料品の処理事業所で裁断のために積み上げられている T シャツのほとんどが私の T シャツよりきれいなのに気づいた際の驚きと同じです。

これからの大掃除で「まだ使える」ものが大量に出ます。それをなぜ「捨てる」のでしょうか？ みなさんのご家庭ではいかがですか？

それなら私は

持続型社会の実現を目標としているのが現在の生活社会だとすると、その見直しのためには「ごみをどうするのか」という問いかけは毎日のことであるだけにとても有効な場面なのですが、それを我が事として市民が意識するにはまだまだ高い壁があるのが事実です。

先に公刊された研究報告書第 27 巻でもごく簡単に触れたことですが現在の吹田市のごみに関する基本政策は対象期間を平成 18 年度から平成 32 年（つまり令和 2 年）度とする吹田市一般廃棄物処理基本計画（すいたごみプラン）にルーツがあると言えます。ここで再録するとその基本方向は次のように示されています。

目指す 4 つの基本方向

- ① 発生抑制を優先する社会への転換
- ② 多くの市民が参加できるリサイクルシステムの構築
- ③ 排出者責任の確立と事業系ごみの減量促進
- ④ リサイクルや適性処理等に適した収集体制や施設の整備

どうですか、いま全国で叫ばれていることとほとんど同じことではありませんか？ 4 方向のうち 3 方向はごみを出す側への問題提起で、同様のことが今も続いているということになります。

では出す側はどれほどそれに応えているのかは、全国のプラザと類似の施設に共通しているカルチャーセンター化という現象が物語っています。ごみへの関心は市民からずっとずっと遠くなりつつあるのが実情なのです。

①から③までは出す側の努力次第、というより出す側にしかできないことでもあるのです。

それなら私は何をやるのでしょうか？ この問いかけをもっともっと広げないといけません。

市民研究所通信

「リサイクル」

という表現を正確に使用しましょう

専務理事・事務局長 山口耕右



私たちの社会は、経済活動の発展とともに大量生産・大量消費・大量廃棄の社会となりましたが、こうした「使い捨て社会」を変えていくための最初の一步として「リサイクル」が進められてきました。

「リサイクル」という言葉が頻繁に使われるようになったのは、平成3年（1991年）頃からといわれています。ごみの減量と再資源化を進めるキーワードとして、今でいう「リユース」を包含した概念として「リサイクル」という言葉が使用されてきました。

リサイクル＝再生利用



しかし、「リサイクル」だけでは資源の枯渇や二酸化炭素の排出をとめることはできないことから、平成11年（1999年）から3R【リデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用）】ということが国から提唱され、「リサイクル」という言葉は「再生利用」という狭義の意味合い

で使用されるようになりました。平成15年（2000年）循環型社会形成推進基本法で、発生抑制、再使用、再生利用の優先順位が示され、「3R」がスローガンとして使用されるようになり、「3R」という言葉も徐々に広がってきています。

最近では、「リサイクル」より優先順位が高い「リデュース」、「リユース」の「2R」を積極的に推進する動きが強くなっています。

正確な理解を進めるために

「リサイクル」という言葉が、現在でも広義で使用されている場合がありますが、特に子どもたちへの説明で、ことばを二重に使用することは避けるべきではないかと考えます。

循環型社会を推進する立場から正確な理解を普及するため、「リサイクル」という言葉を「再生利用」という狭義の意味で使用していきたいと考えておりますので、市民研究員の皆さんもご協力をよろしくお願いいたします。

11月28日「プラザで遊ぼう！」開催

橋本 洋子

12月、コロナウィルス感染拡大の影響で大阪府ではレッドステージが点灯しましたが、その少し前、手作りおもちゃと環境PTと市民とお店をエコでつなぐPTによる「プラザで遊ぼう！」を開催しました。

2組の親子が、いらなくなったアナログカメラのフィルムケースや紙パックを利用した万華鏡を作ったり、風呂敷やバンダナの包み方を学んだりしました。小学校低学年の子ども達は風呂敷の端と端とを結ぶのが難しく、まずは2色の紐を使って真結びから練習。保護者の方々もボトルの包み方や、2冊の本の結び方など、子どもたちより真剣に取り組み、笑顔で帰って行かれました。

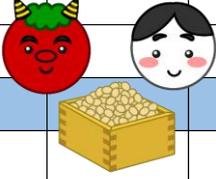
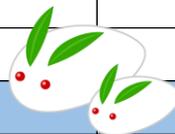


市民研究所カレンダー

研究所 1 月の予定

日	曜	催し	時間・場所	備考
1	金	休館日		
2	土	休館日		
3	日	休館日		
4	月	休館日		
5	火			
6	水			
7	木			
8	金			
9	土	第10回代表者会議	13:15~ プラザ講義室	主担・代表者・ 事務局
10	日			
11	月	休館日		成人の日
12	火	休館日		振替休館
13	水			
14	木			
15	金			
16	土			
17	日			
18	月	休館日		
19	火			
20	水			
21	木			
22	金			
23	土			
24	日			
25	月	休館日		
26	火			
27	水			
28	木			
29	金	環境学習展示発表会	9:00~22:00 千里ニュータウンプラザ	●
30	土	環境学習展示発表会	9:00~22:00 千里ニュータウンプラザ	●
31	日	環境学習展示発表会	9:00~15:00 千里ニュータウンプラザ	●

研究所 2 月の予定

日	曜	催し	時間・場所	備考
1	月	休館日		
2	火			
3	水			
4	木			
5	金			
6	土			
7	日			
8	月	休館日		
9	火			
10	水			
11	木	休館日		建国記念の日
12	金			
13	土			
14	日	休館日		電気点検
15	月	休館日		
16	火			
17	水			
18	木			
19	金			
20	土			
21	日			
22	月	休館日		
23	火	休館日		天皇誕生日
24	水			
25	木			
26	金	第5回研究運営委員会	くるくるプラザ またはZoom	主担・事務局
27	土	定例会	プラザ	エコ体験PT
28	日			

2/6
研修講座③
第11回代表者会議
10:00より
13:15より
場所:プラザ講義室

 は、資源リサイクルセンター（くるくるプラザ）の休館日です。●は、一般の方も参加できます。詳しくはプラザまで。

※予定は、変更する場合があります。